

礪波郡の雄神川の辺にして作る歌一首

四〇二一番

雄神川 をかみがは 紅にほふ くれなゐ 娘子らし をとめ 葦付取ると あしつきと 瀨 せ
に立たすらし た

婦負郡にして鷓坂川の辺を渡る時に作る一首

四〇二三番

鷓坂川 うさかがは 渡る瀨多み わた この我が馬の あ 足搔きの水 あが
に衣濡れにけり きぬぬ

鷓を潜くる人を見て作る歌一首

四〇二四番

婦負川の めひがは 速き瀨ごとに はや 篝さし かがり 八十伴の緒 やそとも
は 鷓川立ちけり うかはた

新川郡にして延槻川を渡る時に作る歌一首

四〇二四番

立山の たちやま 雪し消らしも ゆき 延槻の はひつき 川の渡り瀨 かは
鏡漬かすも あぶみつ